

はじめに

今年の研究集会は特にA03計画研究班の原さんのご尽力をいただいて「発展の地域性」をめぐって行うことになった。経済発展の研究に縁の深い研究者の方々にお越し、多数ご出席いただき感謝している。

先日東京で重点領域研究「総合的地域研究」に関して、第2年次の文部省のヒアリングが行なわれた。私どものこの領域からは3名が出席して、研究方向とか、研究概念に関しての質疑応答を行ったが、その中で、経済諸現象は地域の独自性を示すものではなく、世界においては、一時期に共通に見られる現象なのではないかという意味の質問があった。今回はその回答への手掛かりが得られると期待している。分析概念の明晰さは経済学の持ち味であり、人間の行動の普遍性というのも経済学の目のつけどころだと思う。経済学を中心とする学問領域の研究者の中から、地域とは何か、あるいは地域によって異なった発展の方向があるかなどの問題への切り口が提示されることを楽しみにしている。地域研究の存立に関わる最も重要な考え方がこの中に含まれていると、私自身は考えている。

この重点領域研究は地域研究を標榜しており、東南アジアを主要な対象としているが、今回は東南アジア以外の地域に関する報告も多くなされる予定である。地域研究は方法論がわかりにくく、しかも、最近重要性が増大してきている研究領域である。この領域では専門閉塞からの開放をモットーにしているので、専門家としての殻を打ち破るような発言がなされることが、この研究会の成功の鍵だと思う。この2日間実りのある時間が過ごせることを念じながら、挨拶にかえたい。

文部省重点領域研究「総合的地域研究」総括班

領域代表者 坪内良博